

令和 3 年度 徳島森林管理署の重点施策

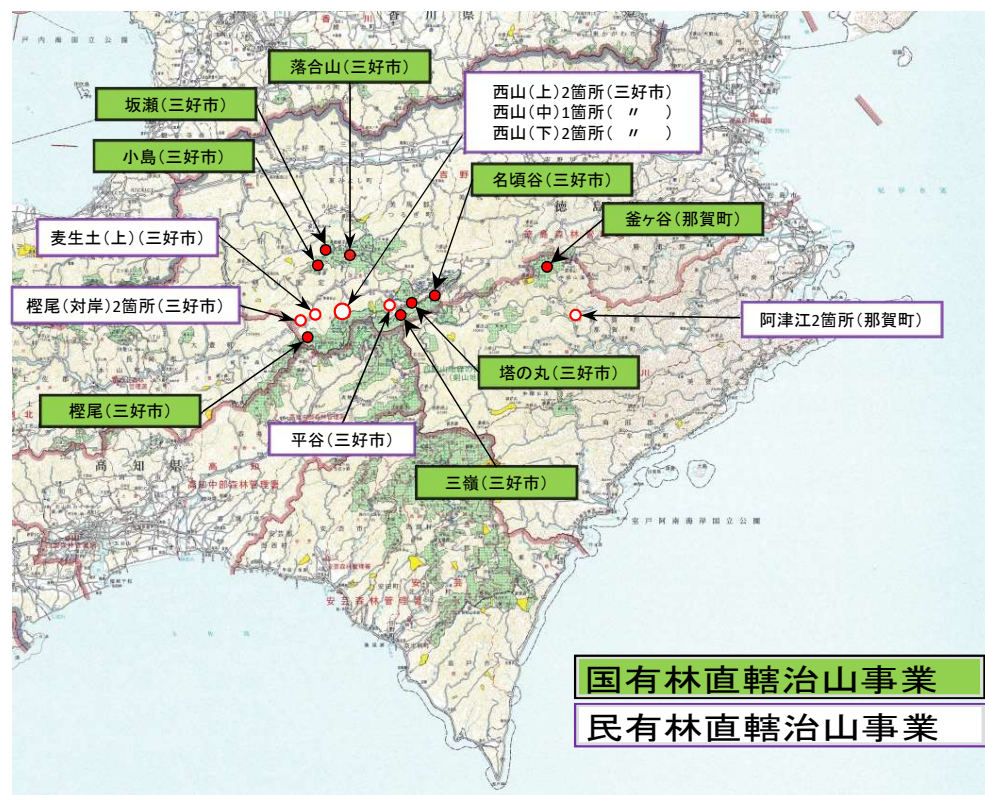
～地域の林業成長産業化に向けた取組～

**令和 3 年 4 月
徳島森林管理署**

1. 地域の安全・安心を守る山地防災力の強化

- 台風、豪雨等の災害から地域の安全・安心を守る治山事業を新規4箇所を含む19箇所を実施。
(R2年度: 15箇所、9.3億円 → R3年度: 19箇所、10.6億円)
- 平成29年3月の三好市と徳島森林管理署の協定締結に続いて、平成31年3月18日に徳島県と四国森林管理局が、県と国による初めての「林野災害時等ドローン利活用協定」を締結。
この協定に基づき、台風・豪雨の災害に備え、徳島県と連携し、被害状況調査訓練やドローンを活用した山地災害調査、画像解析ソフトを使った迅速な復旧計画の作成等に取り組む。

■ 令和3年度 治山事業実施箇所図



■ ドローンによる被害状況調査(H30年7月三好市外)



■ ドローンをを用いた徳島県及び関係市町村との被害状況調査訓練(R2年10月神山町)



■ 三好市とのドローン活用災害活動連携協定(H29.3.23) ~全国初の協定~



■ 徳島県との林野災害時等ドローンの利活用協定(H31.3.18)



2. 生産・造林複数作業契約によるトータルコストの削減

- 多くの森林が収穫期を迎える中で、保育間伐【活用型】造林(下刈)の生産・造林複数作業種組合せ(三好市東祖谷塔の丸)を導入し、トータルコストの削減に取り組む。
- コンテナ苗の安定生産に資するため、令和3年度以降の徳島森林管理署の調達見通しを公表。

活用型造材作業



活用型運材作業



下刈作業



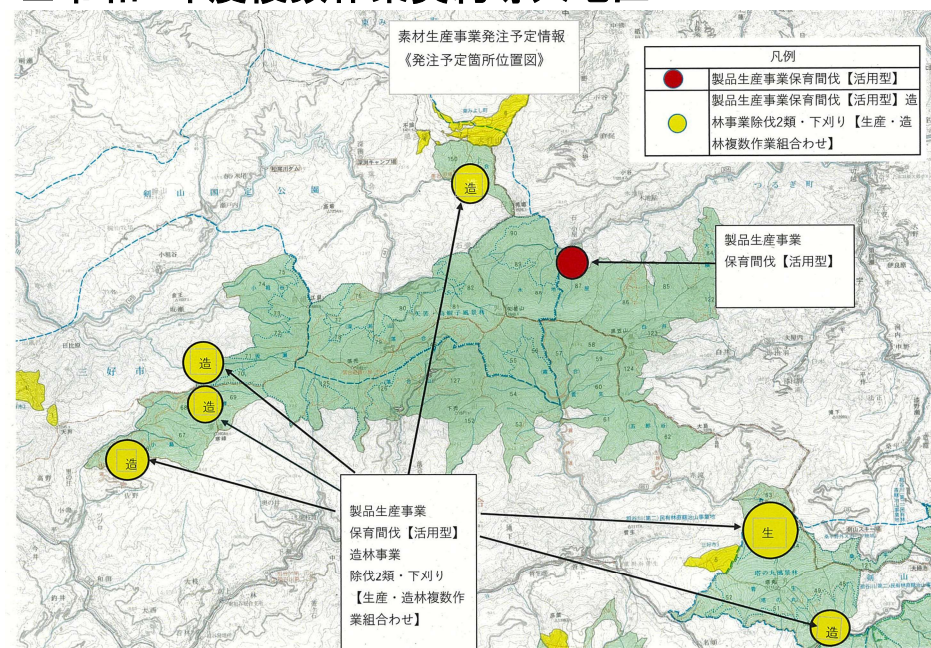
コンテナ苗



複数作業
の組合せ

保育間伐活用型と下刈作業の複数作業の組合せによるトータルコストの削減
＜保育間伐活用型と下刈作業複合契約＞

■令和3年度複数作業契約導入地区



■徳島森林管理署のコンテナ苗の導入本数

単位:本

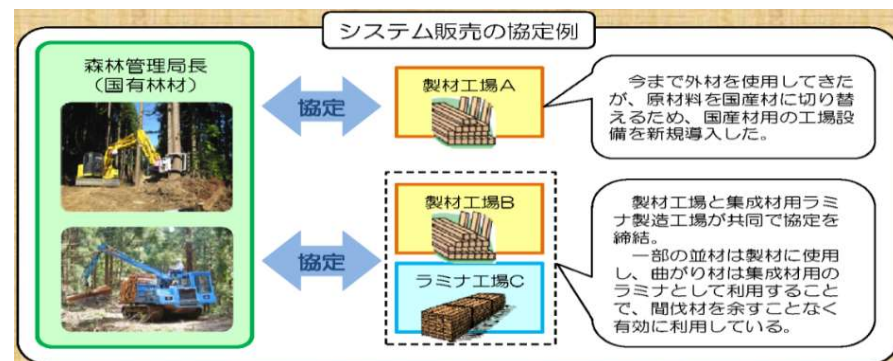
区分	H29	H30	H31	R2	R3	R4
本数	—	8,630	5,200	—	—	—

※ R4、R5年度は調査中

3. 国有林材2.5万m3を安定供給

- 立木販売の強化等により国有林材2.5万m3を安定供給。
(R2年度:15.1千m3(製品6.1千m3、立木14千m3) → R3年度:25千m3(製品7.2千m3、立木17.6千m3))
- 立木販売を抜本強化(R2年度:14千m3 → R3年度:17.8千m3):①年間の立木販売予定情報の公表、②需要先とのマッチング営業活動の強化、③立木販売と造林の混合契約の推進、④立木のシステム販売の推進。

■ 国有林材の安定供給システム販売の仕組み



※システム販売の対象は、製品(丸太)と立木。協定の相手方は、製材工場、木材加工業者、原木市場、素材生産業者等。
立木のシステム販売は、複数年(3年以内)の協定、搬出期間は売買契約から原則3年以内。

■ 徳島森林管理署の国有林材の供給量

	単位：千m3				
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
供給量(製品換算)	6.4	6.8	5.1	20.1	24.8
製品販売	5.3	6.7	4.5	6.0	7.2
システム販売	5.1	6.6	4.4	5.8	7.0
立木販売	1.6	0.1	0.6	0.2	17.6

H29～R2年度は実績数量。R3年度は計画数量



木材生産現場
(三好市東祖谷小川国有林)



市売りした国有林材
(小松島市の原木市場)

4. ケーススタディ会議と現地検討会による民国連携と林業技術の普及

- 三好地域の林業関係者、徳島県、三好市、徳島森林管理署で構成する「ケーススタディ会議」(H28年度設置)を拠点に、民有林と国有林が一体となった路網整備・相互利用、協調施業、協調販売担い手確保対策等に向けた課題解決に取り組む。
- 市町村林務担当者、民有林関係者等を対象に低コスト林業等に関する「現地検討会」を開催し、得られた成果の民有林への普及に取り組む。

■ 令和3年度 現地検討会の開催計画

期 日	内 容	場 所
R3年 9月頃	ドローン自動飛行及びGIS研修会	徳島署管内国有林



列状間伐現地検討会
(低コスト林業(R3年3月))



ドローン研修座学
(低コスト林業(R2年9月))



ドローン飛行研修
(低コスト林業(R2年9月))



R2年度第19回ケーススタディ会議
(R2年7月)



バイオマス発電所の見学
(R2年10月)



ドローン測量研修会
(ケーススタディ会議(R2年12月))

5. とくしま林業アカデミー、那賀高校森林クリエイイト科、池田高校三好校、徳島大学の人材育成の支援

- 平成30年3月の徳島県、徳島県森林づくり推進機構及び四国森林管理局の人材育成連携協定に基づき、とくしま林業アカデミーに対し、学生の実地研修、講師派遣等の支援を実施。具体的には、コンパス測量実習、ドローンの操作とその活用に関する実地研修を行う。
- 那賀高校森林クリエイイト科の生徒に対する森林環境教育、那賀地域林業担い手対策協議会における担い手対策の支援に取り組む。
- 池田高校三好校環境資源科のドローンの操作と利用に関する出前講座、徳島大学生産資源産業学部などの大学生へのインターンシップにも取り組む。



とくしま林業アカデミーでのコンパス測量実習
(R2年7月)



森林クリエイイト科へのインターンシップ
(R2年10月)

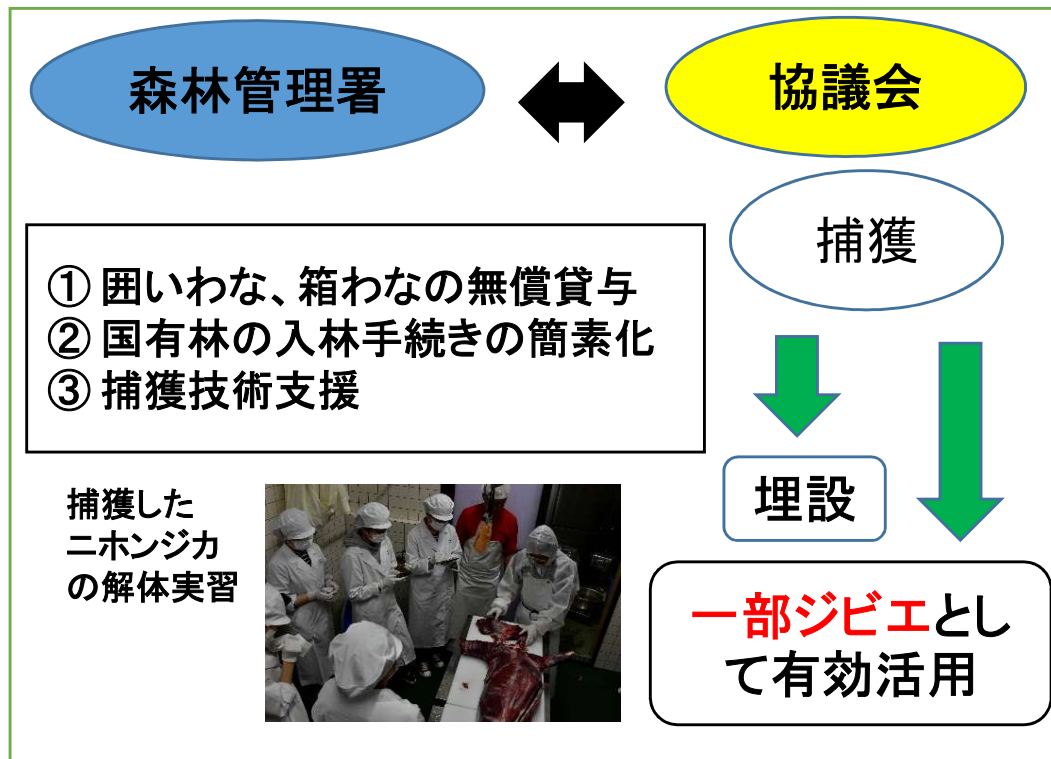


池田高校三好高のドローン講座
(R2年11月)

6. 地域との協定締結によるシカ被害対策の推進

- 平成29年5月に南つるぎ地域活性化協議会※と締結した「シカ被害対策推進協定」に基づきシカ捕獲。防鹿ネットの増設、既設ネットの保守・点検による植生保護の取組を実施するとともに、ボランティア団体等とも連携し、効果的なシカ被害対策に取り組む。(令和2年度は10頭捕獲)
- 徳島文理大学と連携し、防シカネット設置と捕獲したシカのジビエ料理の普及活動を推進。

■シカ被害対策推進協定



※南つるぎ地域活性化協議会は、剣山南西地域の環境保全と地域の活性化を目的に山に関わる団体等をメンバーとするボランティア団体



ボランティアとの防鹿ネットの設置



職員によるシカ処理状況



小型囲いワナによる請負のシカ捕獲



ジビエの有効利用活動に感謝状
(徳島文理大学生と)

7. 「祖谷のかずら橋シラクチカズラ資源確保プロジェクト」の推進

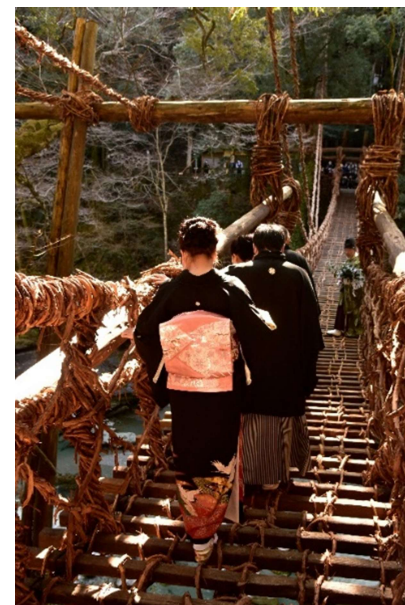
- 平成30年2月に徳島森林管理署、香川大学農学部、三好市が締結した「シラクチカズラ資源確保と活用推進連携協定」に基づき、三者が相互に連携し、地域の「木の文化」の象徴である祖谷のかずら橋、奥祖谷の二重かずら橋の架け替え資材であるシラクチカズラの資源確保とその果実の活用に向けた取組を展開する。
- 令和3年度は、①三好市国有林内の植栽地にシラクチカズラの苗木の植栽と昨年植栽した保育(下刈等)と植生調査 ②地元小・中学校生を対象とした「シラクチカズラセミナー」の開催 ③西祖谷のかずら橋の材料となる、シラクチカズラ資材の供給を実施する。



シラクチカズラの生息調査
(R2年5月小島66苗畑)



架け替え用に採取されたシラクチカズラ
(R3年1月)



祖谷のかずら橋の渡り初め
(R3年2月)

8. 「日本の美しい森」剣山自然休養林の観光資源としての活用

- 剣山自然休養林は、全国で93箇所の「日本の美しい森～お薦め国有林」に選定されており、平成29～30年度に東屋・多言語看板・歩道を整備。
- 剣山自然休養林の観光資源としての活用を推進するため、関係機関、団体との連携を図り、観光資源としての利用に向けた各種活動に取り組む。



剣山自然休養林全景



剣山頂上の登山客



鎗戸シコクシラベ保護林看板



剣山から見た次郎笈(じろうぎゅう)



冬山を楽しむ登山客



奥祖谷二重かずら橋

9. 国産材自給率50%に向けた森林環境教育の推進

- 令和7年度に木材自給率50%の目標を達成するためには、多くの国民に木材利用の重要性を理解して頂き、身近な生活の中での木材利用を推進していくことが重要。
- このため、次世代を担う子供たちを対象に、保護者や教育関係者のニーズを反映した森林環境教育プログラムによる森林環境教育に積極的に取り組む。



とくしま木づかいフェアー(R元年10月)



木のおもちゃまつり(R元年12月)



目佐児童館(R2年12月)



八万東保育所(R3年1月)



みずほ保育園(R3年1月)



昭和保育所(R3年2月)

10. 徳島森林管理署の取組の積極的な情報発信

- 徳島森林管理署の各種取組・事業について、時期を逸することなく積極的な情報発信に取り組む。具体的には、四国森林管理局・徳島署HPへの掲載、市町村の広報誌への情報発信に取り組む。
- 森林経営管理制度等に関わる情報提供の機会や各種会議を活用し、市町村をはじめとする関係機関・団体等を直接訪問するなど、情報提供を行うとともに、地域からの国有林に対するニーズを把握する。
- 現地検討会の開催に係る対応や、市町村への指導・助言を行える技術者を養成する事業への講師派遣を通じた支援等にも取り組む。



徳島森林管理署署長室でPR



三好市広報に掲載 令和3年3月号



三好市市長室に直接訪問(R2年7月)